

## 広隆寺での逸話

京都・太秦の広隆寺といえば、なんといってもこの寺に安置されている多くの仏像の中で目を引くのは、やはり「弥勒菩薩」正確には「弥勒菩薩半跏思惟像」です。戦後には真っ先に国宝に指定され、日本の国宝第1号になったのです。ドイツの哲学者「カール・ヤスパース」(1883~1969)はこの弥勒菩薩が持つ完成された美しさについてこう述べておられます。「この広隆寺の仏像には本当に完成され切った人間「実在」の最高の理念があますところなく表現され盡している」と絶賛したというのは有名な話です。

実は

この国宝第1号の仏像には新聞などに大々的の報じられた有名な逸話があります。

—ある日、広隆寺に一人の学生がやってきました。彼は迷わず広隆寺の宝物殿へと足を向けた。そこで彼が見たものは、弥勒菩薩像の「永遠の微笑」だった。目の前にあるのはただの仏像ではなく本物の弥勒菩薩だったのです。足が一步前に出たかと思うと。次の瞬間、永遠の微笑は彼の腕の中にあった。無意識のうちに彼は弥勒菩薩像を抱きしめていた。

バキッ！乾いた音が響いた。気がつくや弥勒菩薩像の小指が折れていた。—

(飛島昭雄著より)

これは実際に起こった話です。一体の仏像の微笑が一人の青年を抱擁という行動に走らせてしまったのです

親睦委員 阿部たかじ

